

薬剤科ニュースレター 2025 年 9・10 月合併号

No. 4 3



①第 95 回薬事審議委員会の結果

8 月の薬事審議委員会での報告事項および承認事項についてお知らせします

1) 医薬品供給に関する報告

①出荷調整・限定出荷（別紙参照）

セパゾン錠が出荷停止中⇒採用中止

②販売中止（予定含む）

ポリフル細粒、錠 500m g

⇒リンゼス錠とイリボーOD 錠 2.5 とで対応

セドリーナ錠 2m g

⇒アキネトン錠 1 mg等の抗コリン薬で対応

チクロピジン錠

⇒クロピドグレル錠で対応

ゾルピデム酒石酸塩 OD フィルム 10m g

⇒採用中止

テルビナフィン塩酸塩 125m g 「タカタ」

⇒別銘柄の薬品で対応

2) 仮採用医薬品

・イリボーOD 錠 2.5（アステラス製薬株式会社）＜過敏性腸症候群治療薬＞

＜効能効果＞下痢型過敏性腸症候群

＜薬価＞37.3 円/錠

⇒ポリフル錠などの代替薬として

・アルファロール散 1 μ g / g（中外製薬株式会社）＜骨粗鬆症治療薬＞

＜効能効果＞骨粗鬆症治療薬等

＜薬価＞36.9 円/ g

⇒主に軟カプセル製剤が服用困難な患者へ使用

Ⅲその他

・厚生労働省の薬事審議会・医薬品第一部会は 7 月 31 日において大正製薬の不眠症に対するオレキシン受容体拮抗薬・ボルゾィ錠 2.5mg、同錠 5mg、同錠 10mg（ボルノレキサント水和物、大正製薬）：「不眠症」を効能・効果とする新有効成分含有医薬品を承認することを了承した.. 再審査期間は 8 年、不眠症

に対するオレキシン受容体拮抗薬としては、ベルソムラ錠、デエビゴ錠、クービビック錠に続く 4 剤目となる。

- ・採用薬品の整理を目的に、使用実績の少ない薬剤の抽出を行い次回の審議とする

②ヘパリン類似物質外用液 0.3%について

ヒルドイドローション 0.3%の「一般名処方」の標準的な記載が変わりました今までヒルドイドローション 0.3%は「【般】ヘパリン類似物質外用液 0.3%」で処方箋に記載されておりました

令和 7 年 8 月 1 4 日より「【般】ヘパリン類似物質外用液 0.3%（乳剤性）：以下、乳剤性」と「【般】ヘパリン類似物質外用液 0.3%（水性）：以下、水性」となりました

該当製品

乳剤性ローション	水性ローション
ヒルドイドローション 0.3%（マルホ）#	ヘパリン類似物質ローション 0.3%「日医工」
ヘパリン類似物質ローション 0.3%「ラクール」	ヘパリン類似物質ローション 0.3%「YD」
ヘパリン類似物質ローション 0.3%「NIT」	ヘパリン類似物質ローション 0.3%「ニットー」
	ヘパリン類似物質ローション 0.3%「ニプロ」

当院院内採用品

☆乳剤性ローションと水財政ローションの違い

ローション＜乳剤性＞（先発品：ヒルドイドローション）

- ・塗りやすさ：液状でサッと広がり、広範囲に使える
- ・ベタつき：少なめでさっぱり
- ・保湿力：軽め。夏場や日常使いに適している

ローション＜水性＞（先発品：なし）

- ・塗りやすさ：液状でサッと広がり、広範囲に使える。乳剤性よりさらに広げやすい
- ・ベタつき：乳剤性より少なく、よりさっぱりした使い心地
- ・保湿力：乳剤性より軽い。夏場や乾燥が強くない場合に適している

※水性ローション（先発品）は存在しません

ヒルドイドローション 0.3%に対しての後発医薬品は「乳剤性」と「水性」が該当します。したがって、処方箋にヒルドイドローション 0.3%と記載があれば、今まで通りヘパリン類似物質ローション 0.3%「NIT」とヘパリン類似物質ローション 0.3%「日医工」が調剤できます。

しかし、一般名が記載されている処方箋では【般】ヘパリン類似物質外用液 0.3%（乳剤性）と書かれていたら、ヘパリン類似物質ローション 0.3%「NIT」は調剤可能でヘパリン類似物質ローション 0.3%「日医工」は調剤不可ということでしょうか

季節が移り行き、乾燥の時期が到来です、保湿を怠ると体にいいことはないですよ～

